

「グリーン・ウォール」の創生 インドネシア・ジャワ島西部 グヌンゲデ・パングランゴ国立公園を囲む 生物多様性コリドーにおける環境修復および保全教育の推進

2009年3月 四半期報告書

苗床の準備やコミュニティとのコンサルテーションなどの植林活動の準備が進み、今期はプロジェクトサイトでの植林活動に重点を置きました。プロジェクト開始からの合計植林面積は、80ヘクタールとなりました。国立公園スタッフや地元政府およびコミュニティとの会議を実施し、植林を実施し、管理・維持していくための地元農家組織が設立されました。さらに、パートナー向けに研修を実施し、キャパシティ・ビルディング(事業を成功させるための技術支援や能力開発)を実施しました。

1. コミュニティによるアグロフォレストリーの実践

1.1. 苗の準備



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

前期に設置された苗床に5万本の苗を準備しました。苗はすべて、地元の樹種を国立公園周辺の地元農家グループから入手しています。苗木を集めることによって、農家も便益を受けることができます。

1.2. コミュニティの農家組織



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

コミュニティによる植林活動に先立ち、計画を策定するために公園スタッフや地元政府を交えて会議やコンサルテーションを行い、プロジェクトに参加するコミュニティを募り、選定しました。

地元コミュニティは本プロジェクトのもっとも重要なパートナーです。

コミュニティが責任を持ってプロジェクトに参加するプロセスを築くために、ボトムアップ方式を採用しました。この方式では、コミュニティ側から情報を集め、話し合いをおこなってから、植林活動計画の策定を始めます。コミュニティ側からは300名以上が植林活動に参加することになりました。

それぞれのグループに、1人のリーダーと数人のフィールド・ファシリテーターがいる8つの農家組織が設立され、定例会や非公式の会合を通じて、さまざまな協議を実施しました。

1.3. 森林再生

地元の農家グループや国立公園のレンジャーと協同で、植林する場所の選定、マッピングの実施、トレイルの敷設、肥料まき、植付け用の穴掘り、苗木の配布を行いました。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

プロジェクト開始から合計すると、80ヘクタールへの植林が行われました。苗木の植え付けが完了した後、モニタリングと雑草除去や根づかなかった苗の植え替えなどの手入れを開始する予定です。

2. エコツーリズムの開発



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

パートナーである地元ガイドのキャパシティ・ビルディングの強化を通じて、エコツーリズムの開発を行っています。

エコツーリズムは、地元のコミュニティへの代わりとなる収入手段となり得、森林に頼らずに生計を立てていくことを支援できる方法のひとつです。コミュニティの人々が国立公園を訪問する人に対して自然解説員やガイドなどとして働ける可能性もあります。そのためには、動物や植物、生態学など保全に関する知識を増やすために、研修を行う必要があります。

CI インドネシアは、グヌングデ・パングランゴ国立公園内にあるボドゴール自然保護教育センターでエコツーリズムの研修を開催しました。研修は、プレゼンテーションや、保全に関する映像、ゲーム、ディスカッション、解説ガイド付きの森林内散策などのメソッドを用いて行いました。

すでに数名がグヌングデ国立公園内のボドゴールの環境保全教育センターでガイドとして働くことが決まっています。

※画像および文章の無断転用はご遠慮下さい。